

目 次

序 章 本書の視角

1 本書の問題意識	001
2 在日朝鮮人運動への批判	006
3 本書の構成	012

第1章 在日朝鮮人はいかに自己を規定し、呼ばうとするのか

——「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」「在日」

1 在日朝鮮人を指すカテゴリー名称	016
2 「朝鮮人」「韓国人」「韓国・朝鮮人」「コリアン」「在日」をめぐって	020
3 「在日」という自称／他称とその思考	033
4 カテゴリー言説とその要因	039
5 小括	041

第2章 朝鮮にたいするコンプレックス

——北朝鮮「帰国」をめぐって

1 なぜ帰国運動か	045
2 在日朝鮮人の北朝鮮「帰国」	046
3 帰国運動の経緯と当時の在日朝鮮人像	047
4 北朝鮮の描かれ方とその影響	050
5 在日朝鮮人と「祖国」	057
6 小括	064

第3章 朝鮮人でなくさせられた朝鮮人

——金嬉老事件と在日朝鮮人の「民族」

1	金嬉老事件という「運動」	066
2	「金嬉老事件」	067
3	金嬉老への共感と嫌悪感	068
4	金嬉老にうつし出された「民族」	074
5	在日朝鮮人にとっての「民族」	078
6	小括	082

第4章 自らの民族性をとりもどす闘い

——反差別闘争と「民族性」の堅持

1	地域運動という先駆け	085
2	トッカビ子ども会	086
3	トッカビ発足までの社会的状況と時代的状況	093
4	運動の論理と展開	095
5	日本人の常識知との作用	103
6	小括	106

第5章 日本でしか生活しない存在

——定住化と指紋押捺拒否運動

1	個々人の運動——指紋押捺拒否運動	108
2	外国人登録法と指紋押捺制度	109
3	指紋押捺拒否運動の論理——「民族的屈辱」と「人間性の回復」	111
4	「市民」／「住民」としての在日朝鮮人	116
5	日本社会への参加を求めた運動として	120
6	小括	123

第6章 最も身近な外国人

——国籍条項撤廃運動をめぐって

1	国籍条項撤廃運動とは	127
---	------------	-----

2	外国籍者を公務員の職から排除するための論理	128
3	国籍条項撤廃運動の経緯と撤廃を求める側の論理	133
4	公務員の区分の明確化をめぐって	135
5	差異の固定化へ	137
6	小括	141

第7章 「コリア系日本人」という衣装に着替える時代

——日本国籍取得論をめぐって

1	いかに日本社会に参加していくか	144
2	在日朝鮮人の国籍の状況	145
3	国籍取得の論理	146
4	同質感と異質感をめぐって	160
5	小括	163

終章 在日朝鮮人を「在日朝鮮人」たらしめるのはなにか

1	「在日朝鮮人」という存在	167
2	言説の変化と不変化	170
3	境界線の固定化から曖昧化・流動化へ	176

あとがき

参考文献

事項索引

人名索引